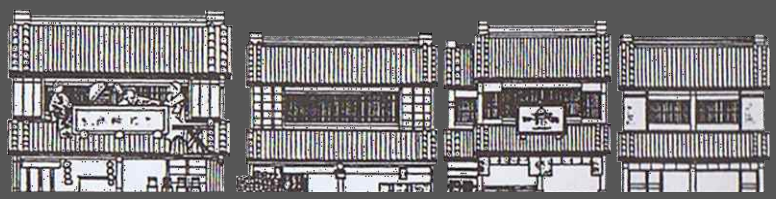
仲町街づくり協定（別冊）
景観ガイドライン

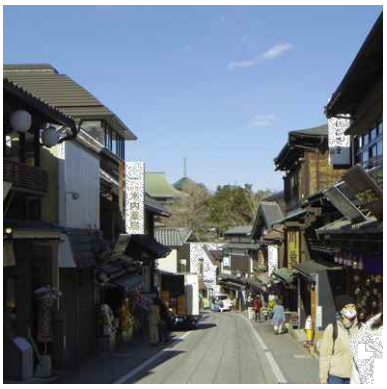
令和2年3月

仲町街づくり協議会



街づくりの基本的方向（第3条）

江戸時代から栄えてきた本地区が今後も発展していくために行う街づくりの基本的方向は次のとおりとします。



伝統的な建物とその背景に拡がる新勝寺のみどりが調和した街並

(1)本地区が持つ歴史、伝統などの特性を大切にし、門前にふさわしい街並みを持つ街づくりを目指す。

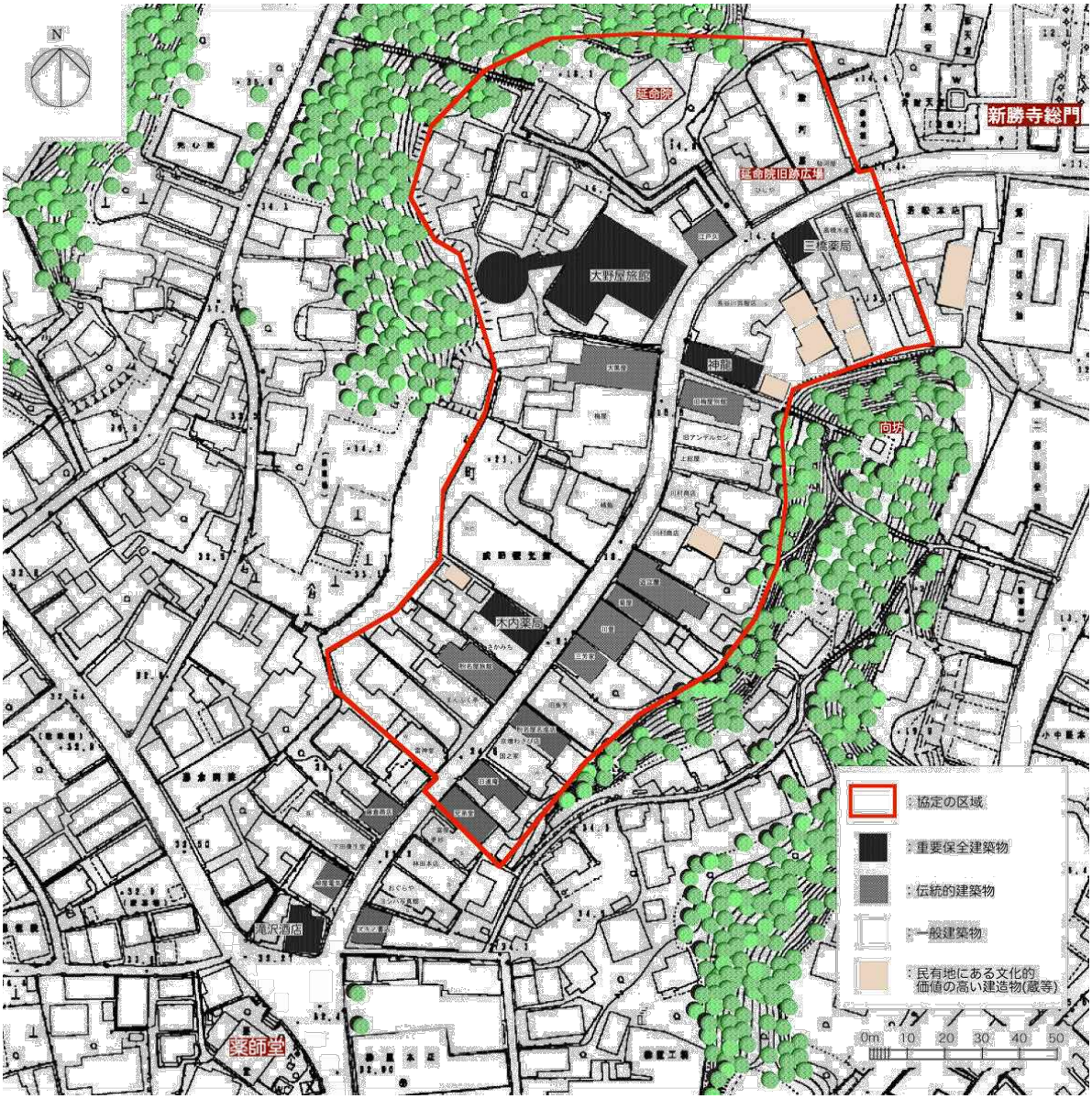
(2)大本山成田山新勝寺を目前に拝する観光拠点として、観光客が安全に楽しめる街づくりを目指す。

(3)成田市の草分け的商店街として、のれんに親しみと風格を感じる店づくりを行うとともに、来訪者には快適な商業環境を提供する。

(4)街並みの背景に広がる豊かな緑を大切にし、伝統的な催事、良好なコミュニティの継承、防災体制づくりなどの居住環境の向上を目指す。

(5)戦は陣立て、仕事は段取りと言われるように、街づくりを進める体制づくり、計画づくりに皆が参加し、目指す街づくりのために協働する。

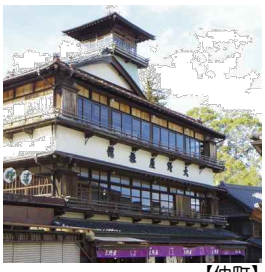
【街づくり協定の区域】



1 伝統的建築物を保全し、それらと調和した街並をつくりましょう

伝統的建築物の修理や修景は、保全または復元を基本方針とします。それ以外の一般建築物の改善や修景、新築等は、伝統的建築物を中心とした街並全体の調和に配慮します。

【現存する主な伝統的建築物/隣接する幸町地区含む】



●旅籠造り 【仲町】

【仲町】

●見世蔵造り 【仲町】

【仲町】

【その他の様式】
※伝統的建築物等と景観的に調和すると考えられる建築様式の事例

茶屋建築

●塗屋造り 【仲町】

●出桁造り 【幸町】

【仲町】

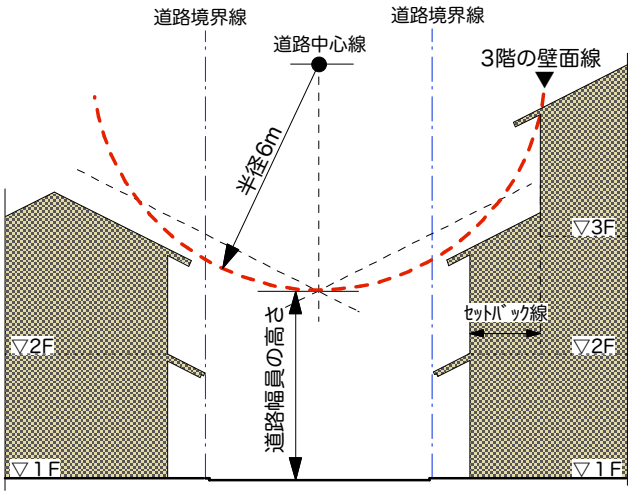
【幸町】

町家建築

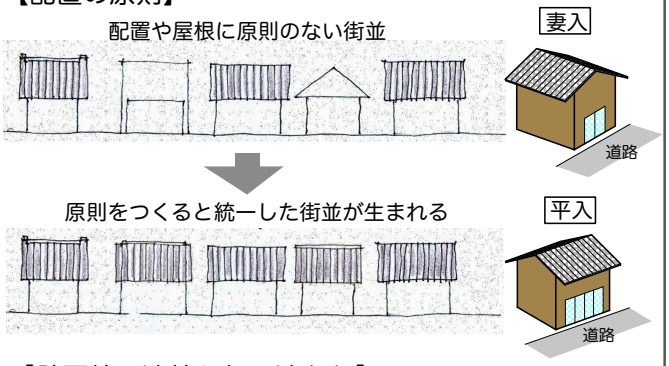
2 壁面線やスカイラインを意識しましょう

2-1 建物の高さは原則として3階建を限度とします。街並がつくりだすスカイラインに配慮し、新築等の場合の3階壁面はセットバックを検討します。
2-2 配置は平入を基本とします。
2-3 2階までの壁面線の連続に配慮します。

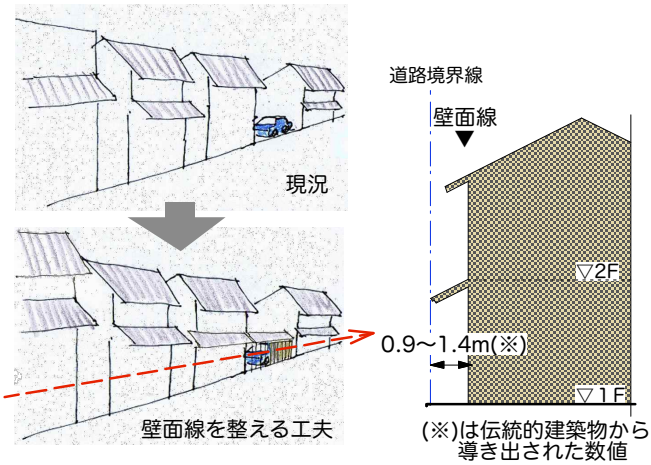
【建物高さとスカイライン】
街並の後背地のみどりや新勝寺への視線を意識し、建物がつくりだすスカイラインを守ります。(但し、重要保全建築物等は除きます)



【配置の原則】



【壁面線の連続と軒の連なり】

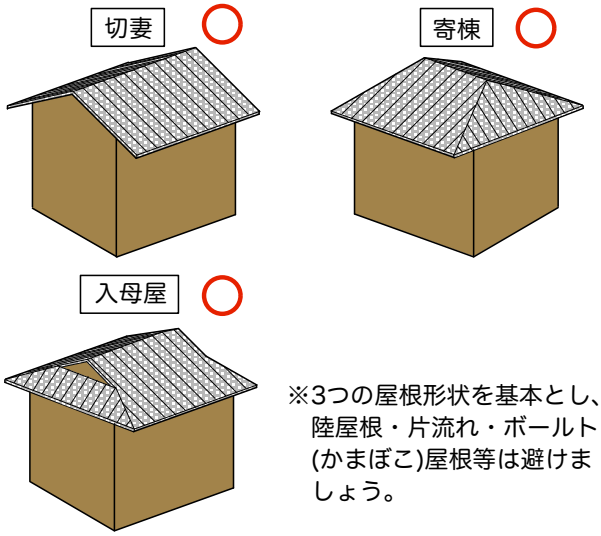


(※)は伝統的建築物から導き出された数値

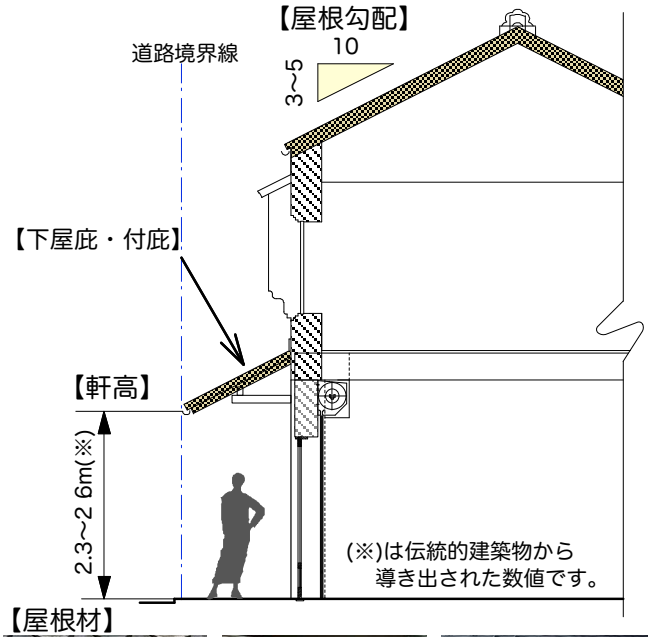
3 屋根や庇の連なりを意識しましょう

3-1 屋根形状は、切妻・寄棟・入母屋を基本とします。
3-2 屋根勾配は、3/10～5/10を基準とします。
3-3 屋根材は、瓦、銅板、金属葺などを基本とします。
3-4 下屋庇または付庇は必ず設けると共に、軒高に一定基準を設けます。

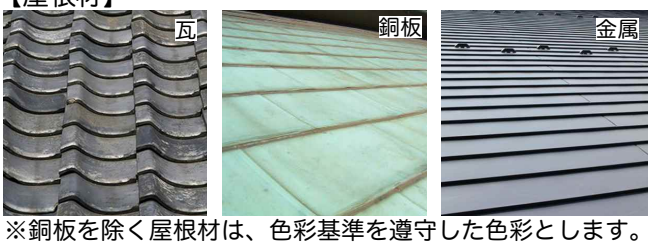
【屋根形状】



※3つの屋根形状を基本とし、陸屋根・片流れ・ボールト(かまぼこ)屋根等は避けましょう。



【屋根材】



※銅板を除く屋根材は、色彩基準を遵守した色彩とします。

4 外壁は伝統的構法を取り入れましょう

4-1 外壁は、漆喰や木材(準耐火構造)を基本とします。それ以外の素材(金属、コンクリート系など)の場合は、色彩基準を遵守した色彩とします。
4 2 正面側だけではなく、参道から見える範囲の側面にも配慮します。
4-3 パラペットで正面を覆い隠してしまっている場合は取外して改修します。

【伝統的な構法の事例】

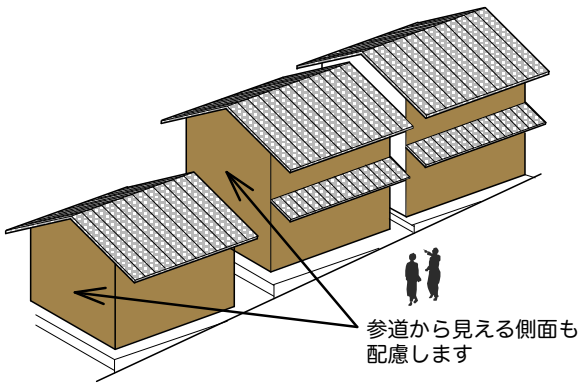
●土蔵造土塗漆喰仕上げ

●真壁造漆喰仕上げ

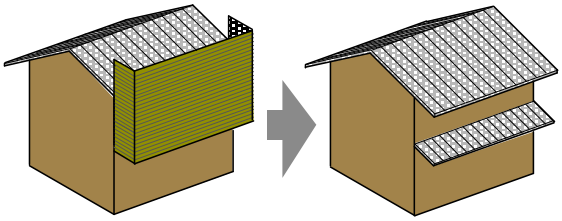
●下見板/押縁

●竪羽目板

【外壁を改修する際の範囲】



【外壁改修のポイント】



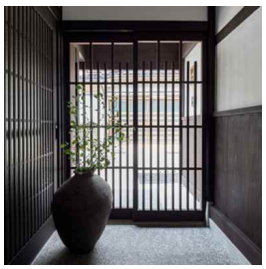
木造で正面をパラペット等で覆い隠している場合

パラペット等を取外しかつての姿に戻します

5 開口部(建具)は個店の建築様式に調和したものにしましょう

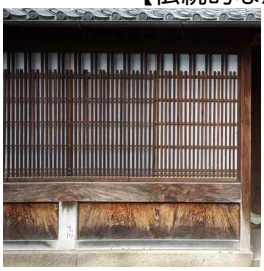
5-1 手に触れる場所は出来るだけ伝統的手法に準じたデザイン、素材とします。
5-2 主要部分のシャッターだけの開口は出来るだけ避け、建具を設けるようにします。
5-3 アルミサッシ等の場合は、シルバー色は避け、暗色系(黒または茶)とします。

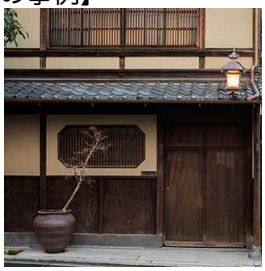
【伝統的な出入口の事例】


●格子戸

●腰付ガラス戸

【伝統的な窓の事例】

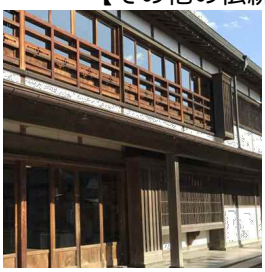

●格子窓


●数寄屋風飾窓

●虫籠窓

●土蔵観音扉

【その他の伝統的な部位の事例】

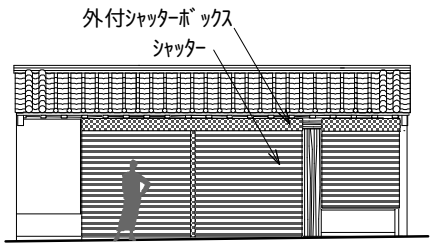

●木製欄干(手摺)&戸袋

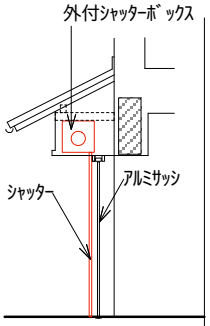
●出格子

●ｼｮｰｹｰｽ1(造作)

●ｼｮｰｹｰｽ2(造作)

【シャッターの改修事例】

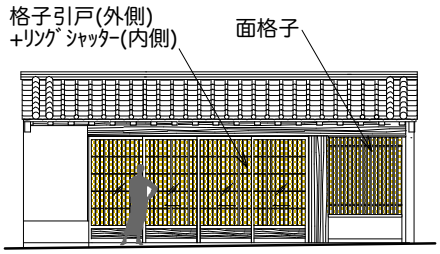


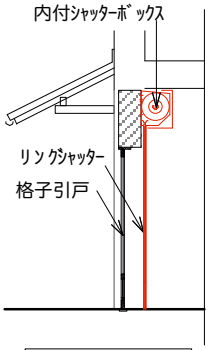


現 況

利便性は高いものの、
意匠性(特に夜間等)に乏しい

現況：断面図





改修案

夜間等の表情が豊かになると共に
内部を可視化することで防犯性の
向上も期待できる

改修案：断面図

【2F欄干(手摺)の街並景観への貢献】

×

アルミ製縦格子手摺

伝統的な素材や形でないものは、
街並が持つリズムを乱すことにつながる

○

木製(欄干)手摺

横につながる欄干は、屋根や下屋庇がつくる
街並の水平線のリズムと調和する

6 街並景観を乱す看板や付属物を整理しましょう

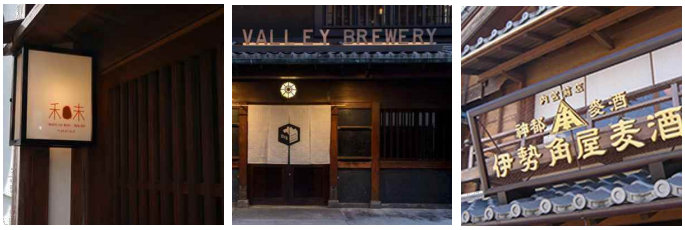
6-1 看板は伝統的な意匠のある下屋上看板、袖看板、置看板形式を基本とし、現代的な電飾看板や屋根ラインを越す看板類は設置しないこととします。

6-2 のぼり旗類は、祭事等を除き設置しないようにします。

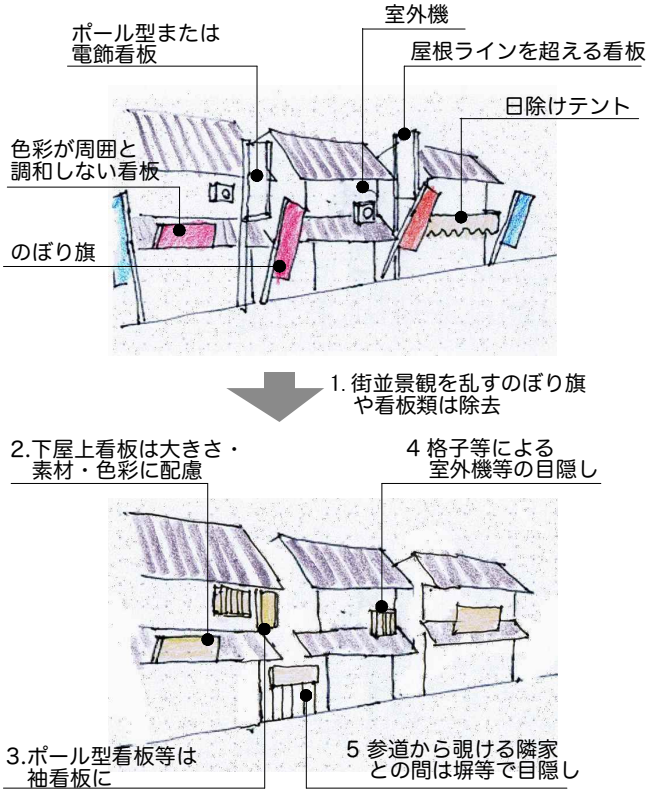
6-3 その他、日除けテントは暖簾やよしず等の伝統的な形態に改め、室外機、ダクト等の設備機器は移設、または目隠しをします。

【伝統的意匠のある看板の事例】

【伝統と調和するように配慮した看板の事例】



【景観を乱す看板類とその景観的な整理】



7 照明は建築物の個性と‘街の灯り’をつくることを意識しましょう

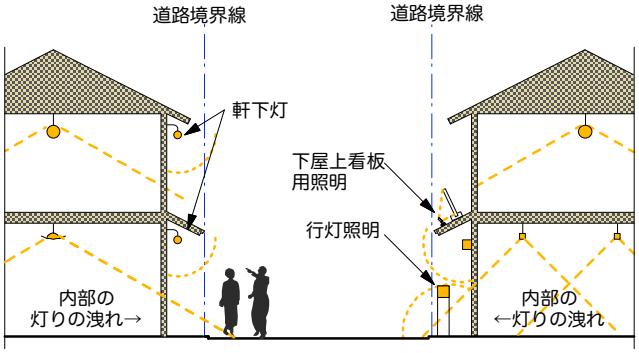
7-1 個店の照明が参道空間の灯りとなり、街路照明を補完する役割となることを意識します。

7-2 大きな電飾看板等は取外し、小さな光が点在した夜間景観をつくります。

7-3 閉店後のシャッターだけの表情は街並のイメージの低下につながるため、出来るだけ店内から灯りが洩れる工夫をします。

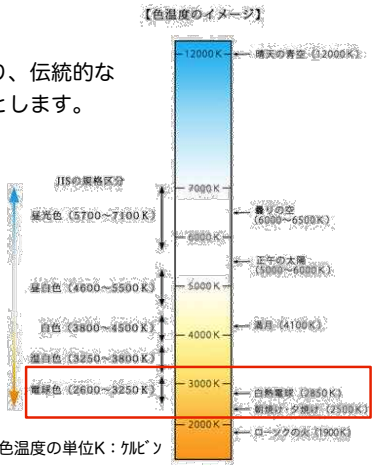
【建築を活かす照明の事例】

【照明の基本イメージ】



【光の色温度の統一】

ランプの色は、暖かみがあり、伝統的な街並に調和する「電球色」とします。
均一な明るさだけを求めず、光の陰影や洩れ灯りなど意識し、情緒豊かな夜間景観をつくります。



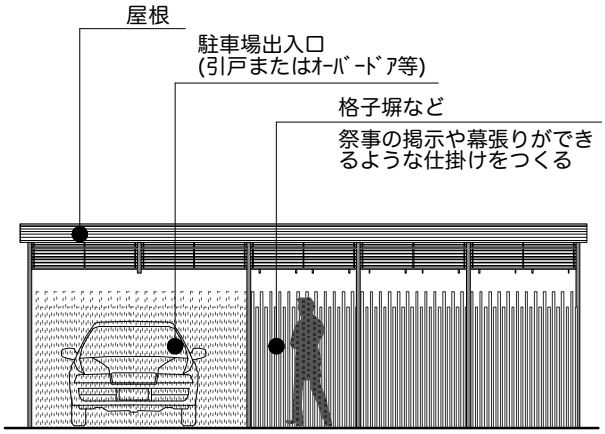
8 建築物のない沿道空間(駐車場等)は、街並の連続性に配慮しましょう

8-1 駐車場等は周囲の建築物の壁面線に併せて塀や門等を設置し、街並の連続性をつくるようにします。

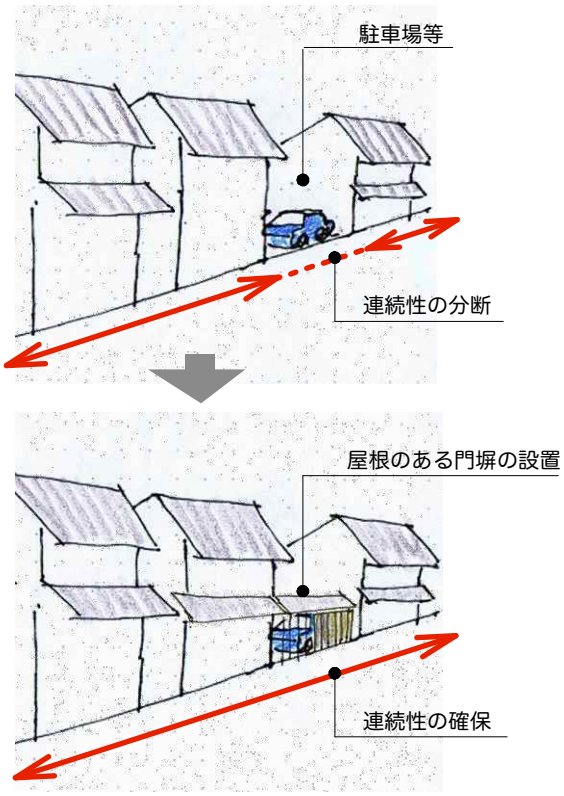
8-2 塀や門は出来るだけ屋根を設置し、周囲の下屋の連なりを意識するようにします。

8-3 塀や門の素材やデザインは、伝統的な意匠に調和するようにします。

【駐車場前の門塀のデザイン例】



【駐車場等による分断された家並の解消方法】



9 店先は半公共空間であることを意識しましょう

9-1 道路と1階壁面までのスペース(軒下空間)は、個店の迎賓の間であると同時に、狭い道路を補完する半公共空間として位置づけます。

9-2 床材は、自然石、自然石系タイル、洗い出し仕上げ等、伝統的建築物との調和に配慮します。

9-3 装飾やポスター等は過剰にならず、建物を活かすことを心掛けます。

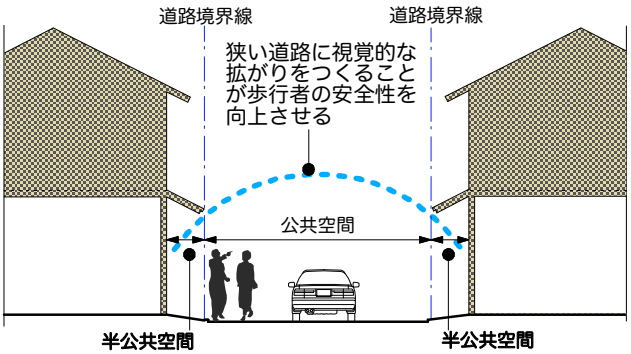
【伝統的建築物と調和する床材の事例】

●自然石敷き

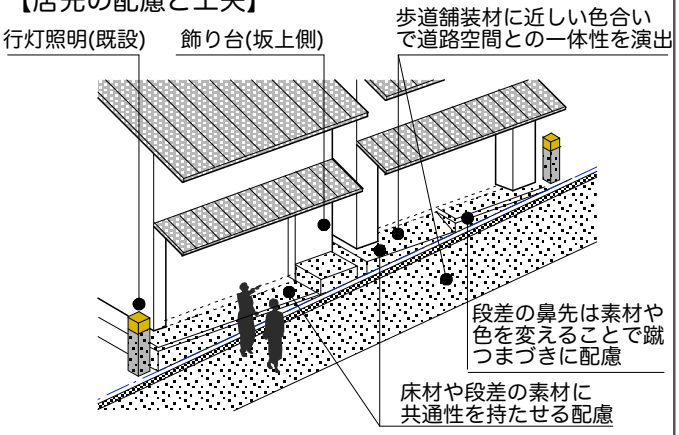
●洗い出し仕上げ

【様々な装飾を同系色やﾃﾞｻﾞｲﾝでまとめた店先の事例】

【店先空間の位置づけ】



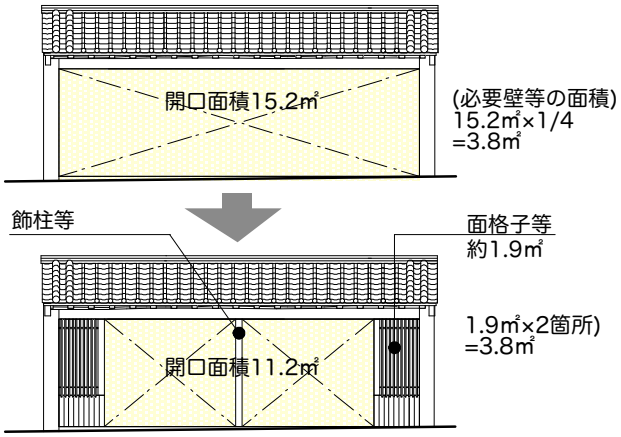
【店先の配慮と工夫】



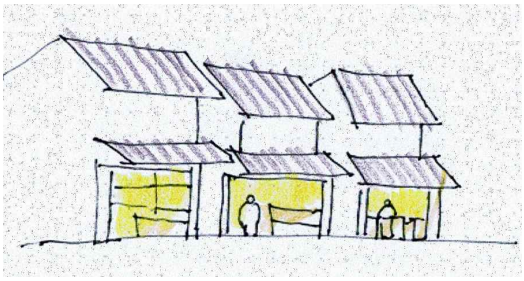
10 間口のしつらえは、外観や街並景観に大きく影響することを意識しましょう

間口いっぱいを開放して営業する店舗では、参道から店内への見通しがよいため、商品等を含む内装自体が建物のイメージをつくりあげています。それは伝統的な建物の外観が持つ陰影や内部の見え隠れ等の特徴が希薄になると共に街並の連続性にも影響します。
そこで開口面積の一部(概ね1/4程度)に壁や建具、それに類するものを設置することとします。

【開口面積1/4塞ぎのイメージ】



【開口部の開閉と街並景観の関係】



間口いっぱいを開放した店舗がつくる街並

壁や建具、暖簾等で一定程度閉じた外観がつくる街並

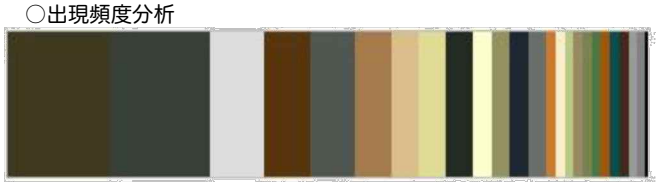
11 伝統的な色彩を基調にしながら、仲町らしい色彩で街並をつくりましょう

成田市景観計画色彩ガイドラインに準じるものとします。
一般的に伝統的な街並の色彩は、瓦や銅板、木材や土蔵等、素材自体の色と密接に関係するため、多種多様な色彩が溢れることはありませんが、現代の材料では多様な色彩の選択肢があります。そこで色彩を出来るだけ限定して、色の氾濫を防ぐことは伝統的な街並をつくる上で極めて重要な基準になります。

【以下、成田市景観計画色彩ガイドラインP33・34より抜粋】

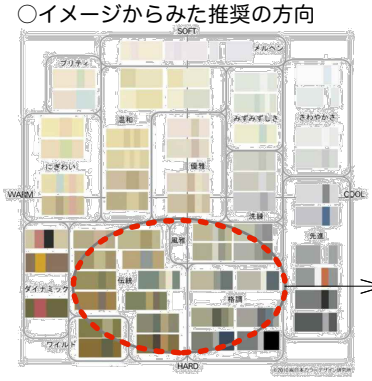
■仲町現状の色彩の特徴
木材の色彩であるYR系統が4割近くを占めており、茶系の濃淡で構成されている建築物が中心です。他方の4割を占める無彩色は中～底明度の灰色であり、蔵造りも、黒漆喰が色褪せて暗灰色になっており重厚さを感じさせています。全体的に暗いトーンで街並が構成されています。

○出現頻度分析



■推奨色と配慮事項
基調色は、風格や落ち着きを感じさせる色彩が望ましいでしょう。木の色に近いYR～Yの色相のうち、渋さのある低彩度で、暗めの中～底明度の色彩を中心に考えましょう。
屋根や看板に用いられる銅葺きの緑青に似たGY～G系の渋い色彩や、屋根に用いられるいぶし瓦など伝統的な素材の色も参考になるでしょう。
坂から新勝寺を眺めると、屋根の色彩が視界の多くを占めるため、屋根の色彩にも配慮しましょう。

○イメージからみた推奨の方向

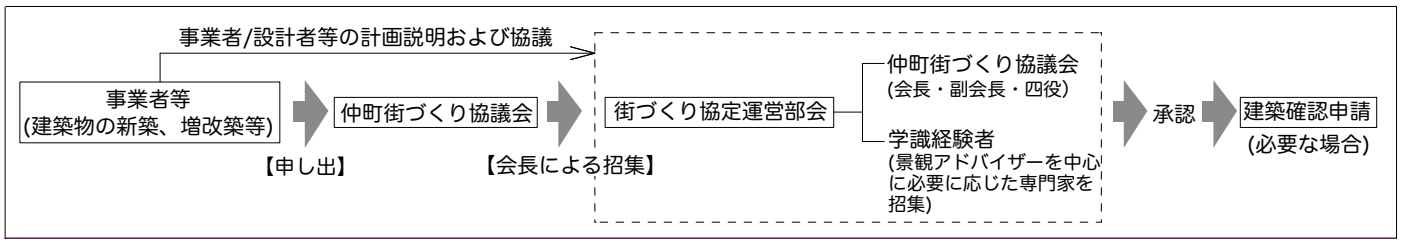


伝統、重厚さ、格調感など歴史の重みと品格の高さを目指しましょう

○推奨色一覧

■伝統的建築物の保全/修理修景・一般建築物の改築・新築等の基準一覧

		伝統的建築物の保全/修理修景基準		一般建築物の改築基準	新築一般基準	参照項目(ページ no.)
建築様式		・3階建前土間付旅館(旅籠造り) ・蔵造2階建土間付店舗(見世蔵造り) ・塗屋造2階建土間店舗(塗屋造り) ・2階建土間店舗(出桁造り) ・その他伝統的建築物に相応しい様式	①	・① ・茶屋建築 ┐ ・町家建築 ┘ ①' ・伝統的建築物との調和に配慮した様式、構法とする	・①+ ①' ・伝統的建築物との調和に配慮した様式、構法とする	1 (P2)
配 置				・壁面線の連続やスカイラインに配慮する ・平入を基本とする	・住居併用の場合の前面側に店舗、背面側に住居の配置を基本 ・壁面線の連続やスカイラインに配慮する ・平入を基本とする	2 (P2)
階 数				原則として3階を限度		
屋 根	形 状			切妻・寄棟・入母屋(※1)		3 (P3)
	勾 配			3/10～5/10		
	素 材			瓦、銅板、金属葺(※2)など		
軒高と庇				軒高基準(2.3～2.6m)と下屋庇または付庇の設置		
外 壁	素 材	・漆喰（和風軸組真壁造漆喰仕上げ、土蔵造土塗漆喰仕上げ） ・木材（大壁造下見板/押縁、大壁造竪羽目板）準耐火構造	②	・② ・自然石仕上げ ・金属製品(※2)		4 (P3)
	付属部位	戸袋の保全		既存パラペットなどの除去		
開口部	出入口	・格子戸 ・腰付ガラス戸	③	・③ ・手の触れる場所は伝統的手法のものにする ・ｼｬｯﾀｰだけの開口は出来るだけ避ける		5 (P4)
	窓	・格子窓 ・数寄屋風飾窓	③	・③ ・手の触れる場所は伝統的手法のものにする ・準不燃を含む木質系素材を基本とするが、ｱﾙﾐｻｯｼの場合は暗色系(黒・茶系)の色彩とする(※3)		
	雨戸 ｼｬｯﾀｰ	・店内への見通しのないｼｬｯﾀｰの場合は伝統的建築物に調和する色彩とする ・店内への見えがかりや参道への灯りの漏れに配慮する				
	手摺 面格子	・欄干（2・3階） ・出格子		・アルミ手摺等は避け、木製またはｽﾁｰﾙ製とし、伝統的建築物との調和に配慮する		
	飾窓 ｼｮｰｹｰｽ	・独立型のｶﾞﾗｽｼｮｰｹｰｽは出来るだけ避け、外壁や開口部に組み込む形式にする				
看 板		・1階下屋上看板、軒下袖看板、常夜灯型置看板を基本とし、2階より上には設置しない ・現代的な電飾看板は設置しない				6 (P5)
その他 付属工作物		・可動式日除けテントは使用せず、伝統的構法とする。(暖簾や簾、よしず等) ・空調室外機、ダクト等の設備機器類は目立たないような目隠しを行う。 ・自動販売機等は出来るだけ設置しないことを基本とするが、やむを得ない場合は、目立たない工夫を行う				
照 明		・店内照明の参道への漏れと軒下灯に配慮し、街路照明を補完する ・午後10時までの点灯に努める				7 (P5)
門 塀		・特別な場合を除き、伝統的構法のものとする ・参道に面する駐車場等は、塀等で遮蔽する				8 (P6)
店先床材 段差		・1F店先の床材は、自然石、洗い出し仕上げ等伝統的建築物との調和に配慮する ・道路との高低差によって発生する段差部分の参道景観への貢献に配慮する				9 (P6)
間口の しつらえ		前面間口の全開放型業態は、店奥まで視線が通らないよう、間口の一部(1/4程度)に壁や建具、それに類するものを設置する				10 (P7)
色 彩		成田市景観計画色彩ガイドラインによる				11 (P7)

※1　屋根形状について
　既存が陸屋根、片流れ、のこぎり等の場合、参道から見えるファサード及び側面を先行改善する方法がある
※2　屋根・外壁素材について
　金属製品の屋根材、外壁材は、色彩基準を遵守した色彩とする
※3　伝統的建築物の改築や修繕において、木質系素材は使用する場所によって防火性能を必要されるため、予め行政との協議を行う必要がある

■街づくり協定運営部会の構成と運営(第8条・第10条6)